

C-53 長着の衿つけに関する研究(第1報)——大裁女物単長着の衿の釣合
東京家政大家政 神田和子

目的 着物の衿付けの技術は大変むずかしい。大学の被服構成の短い授業時数で専門的に、また応用のきく程度に修得させるためには、それなりに合理的且つ能率的な指導が行われなければならない。そこで従来経験的に手練、熟練によって行われてきたところのものを理論的に数値を算出して行う方法を研究した。

方法 大裁女物と云え長着の衿つけの釣合について、浴衣地を使用して、形、寸法の異なる三通りの衿つけ線のそれぞれに対する衿の中るみを、円弧を求める考え方を応用し、布の厚み、衿つけ線のカーブ、着装時の肩から胸にかけての衿つけ線の状態等を加味してどの程度中るめるのが適当かを数理的に算出し、縫製実験を行った。

結果 上記の方法によって数理的に算出した衿の中るみは、縫製実験を通してどの場合にも適当であった。

- ・理論的に割出した衿つけの合標をつけることにより、技術的にも時間的にも容易に美しく衿をつけることができ能率的である。
- ・理論的に衿つけの解明ができ、従来の指導上の不合理さが解決される。